

「Technical Services」「整理技術研究」「資料組織化研究」

「資料組織化研究-e」 総目次

—創刊号から第 66 号まで—

和中幹雄 編

岩淵泰郎を代表とする図書館技術研究会によって 1964 年に『Technical Services』という誌名で創刊されて以来、本誌は 50 年間、資料組織化（情報資源組織化）をテーマとする専門誌として、時代の状況に合わせてその誌名を変更しながらも、号次を継承して刊行されてきた。これらを歴史的に概観できるように総目次を作成した。以下に、誌名、号次および刊行年月を示すとともに、国立国会図書館の目録情報（NDL-OPAC および WARP）とリンクさせている。

[Technical Services](#) / 図書館技術研究会編. 1 号～13 号. 1964～1979.

[整理技術研究](#) / 図書館整理技術研究会編. No. 14～No. 42. 1979/12～2000/2.

[資料組織化研究](#) / 図書館資料組織化研究会編. No. 43～No. 54. 2000/7～2008/1.

[資料組織化研究-e](#) / 図書館資料組織化研究会編. No. 55～No. 66. 2008/11～2015/3.

なお、日本目録規則新版予備版刊行前後に図書館技術研究会が刊行したモノグラフ・シリーズ「図書館技術研究会研究情報」および「図書館整理技術研究会研究情報」も収録している。

[図書館技術研究会研究情報](#) / 図書館技術研究会.No.1～No.3. 1975/5～1977/3.

[図書館整理技術研究会研究情報](#) / 図書館整理技術研究会.No.4. 1982/8.

以下の目次では、著者について、Web 上で利用可能な典拠 ID 等にリンクさせている。日本の個人著者および団体著者については、国立国会図書館の Web NDL Authorities の典拠 ID に、それが存在しない場合には、CiNii Articles の著者 ID（同定されずに複数の著者名 ID が存在する場合には主な著者 ID）にリンクさせている。外国人名については、VIAF（バーチャル国際典拠ファイル）の ID にリンクさせている。

[Technical Services](#) 1 (1964)

[岩淵泰郎](#). 日本目録規則 1964 年版の諸問題(1) 序説について. p. (1)-(2).

関根隆子. 東京学芸大学附属図書館教科書分類法. p. 1-15.

[マン, M.](#)[著]; 原禎子訳. 分類目録. p. 16-26.

原文: Mann, Margaret. *Introduction to cataloging and the classification of books*. 2d ed. Chap. 12.

Technical Services 2 (1965)

[J. H. Shera](#)[著]；石部貞子訳. 書誌構成の基礎としての分類. p. 2-9.

原文: Shera, Jesse H. "Classification as the base of bibliographic organization" in *Bibliographic organization : Papers presented before the Fifteenth Annual Conference of the Graduate Library School, July 24-29, 1950*. Edited by Jesse H. Shera and Margaret E. Egan. University of Chicago Press, 1951. p. 72-105.

Technical Services 3 (1966)

[[Association française de normalisation](#) 編]；箕輪典子訳. フランス目録規則《アルファベット順主題目録》：1957年4月制定—NFZ44-070— p. 1-16.

原文: Association française de normalisation. *Norme française. N. F. Z. 44-070. Avril 1957. Catalogue alphabétique de Matières.*

Technical Services 4 (1970)

[H. D. MacPherson](#) [著]；井上由利子訳. 分類と分類作業の原理. p. 1-12.

原文: MacPherson, Harriet D. "The Philosophy of classification and of classifying," *The Library Quarterly*, vol. 9, no. 3. Jul., 1939. p. 321-331.

[M. Mann](#)[著]；山口忠信訳. 図書の解明者としての目録係員. p. 13-29.

原文: Mann, Margaret. *Introduction to cataloging and the classification of books. 2d ed.* A. L. A., 1943. p. 1-11.

Technical Services 5 (1971)

[Richard H. Perrine](#)；井上由利子訳. 目録利用の研究. p. 1-8.

原文: Perrine, Richard H. "The imperfect key : catalog use study," *RQ*, 6 (Spring 1967), p. 115-119.

[Richard H. Perrine](#)[著]；[高鷲忠美](#)訳. 目録利用上の困難点：その原因と対策. p. 9-17.

原文: Perrine, Richard H. "Causes and cures : catalog use difficulties," *RQ*, 7 (Summer 1968), p. 169-174.

[岩瀨泰郎](#). 図書館における目録作成の理念について：とくに標目未記載ユニットカード方式に関連して. p. 18-24.

Technical Services 6 (1972/5)

無著者名古典の解題. p. 2-26.

[山口久美子](#). 無著者名古典の解題：イギリス文学編. p. 3-18.

坂下宏子. 無著者名古典の解題：ロシア文学編. p. 19-26.

[岩瀨泰郎](#). 無著者名古典関係文献目録 p. 27-31.

[H. D.マクファーソン](#) 著；[岩渕泰郎](#) 訳. 目録業務の理念に関する若干の考察. p.32-44.

原文: MacPherson, Harriet D. "Some thoughts on the philosophy of cataloging," *The Library Quarterly*, Vol. 9, No. 3. January, 1939. p. 63-71.

[植田喜久次](#). 整理計画：整理の集約化. p.45-58.

[Technical Services](#) 7 (1973/2)

[[Jackson, Sidney L.](#) 著]; [小関昌男](#) 訳. 目録利用調査 p. 1-37.

原文: Jackson, Sidney L. *Catalog use study : director's report*. American Library Association, 1958. Chap. 1, 3, 4.

[Technical Services](#) 8 (1973/12)

[J. D. Fellows](#) 著；[高鷲忠美](#) 訳. 目録カード作成にあたっての留意事項. p. 1-11.

原文: Fellows, J. D. *Cataloging rules, with explanations and illustrations*. H. W. Wilson, New York, 1926. p. 8-15.

[M. Mann](#) 著；山口忠信訳. 図書の技術的な読み方について. p. 12-32.

原文: Mann, Margaret. *Introduction to cataloging and the classification of books*. 2d ed. A. L. A., 1943. p. 12-28.

鳥居孝子. 無著者名古典の解題：ドイツ編. p. 33-77.

[Technical Services](#) 9 (1974/6)

[J. H. Shera](#), M. E. Egan 著；木村隆子訳編；鯨井雅子, [山口久美子](#), 鳥居孝子, 布瀬弘子, [岩渕泰郎](#) 訳. 分類目録体系の構成と維持. p. 1-40.

原文: Shera, J. H.; Egan, M. E. *The classified catalog : basic principles and practices*. ALA, 1956. p. 64-103 (Chapter 3: The construction and maintenance of the classified catalog system).

[図書館技術研究会研究情報](#) No.1 (1975/5)

[国際基督教大学図書館整理部](#). 目録規則に対する要望. p. 1-12.

[図書館技術研究会研究情報](#) No. 2 (1975/9)

[関野真吉](#). 日本目録規則の改正に際して. p. 1-3.

[椎葉徹子](#). 第5回整理技術全国会議に参加して. p. 3-5.

[岩渕泰郎](#). 「日本目録規則・新版」草案について. p. 5-9.

[目録委員会](#). 「日本目録規則・新案」草案について. P. 9-12. (参考資料)

第5回整理技術全国会議配布資料からの抜粋

Technical Services 10 (1975/12)

古川肇. 北米及び英国に於ける非図書資料の目録規則について : AACR 第 III 部改訂の基礎となる諸規則の紹介. p. 1-13.

鮎澤修. 目録利用論序説. p. 14-25.

Technical Services 11 (1976/9)

古川肇. 編者および編纂者の著者性について : 「英米目録規則」第 4、5 条の改訂をめぐって. p. 1-13.

図書館技術研究会研究情報 No.3 (1977/3)

関野真吉. 日本目録規則改正案について : 再び三つの質問. p. 1-4.

椎葉倣子. 日本目録規則新版予備版 (案) に対する意見. p. 4-9.

古川肇. 出版年の記載について : 予備版 (案) 2.4.3 への批判. p. 9-13.

高鷲忠美. 変革のなかの目録・目録規則をめぐって. p. 13-15.

Technical Services 12 (1977/12)

浅沼俊則. 比較目録法 : 書名. p. 1-7.

Ukoh, R. A. [著]; 田村俊作[訳]. 図書分類と変更 : Bliss の例. p. 8-14.

原文: Ukoh, R. A. "Library classification and change : the example of Bliss," *Libri*, vol. 25, no. 3. September 1975. p. 168-173.

Mills, J.[著]; 田村俊作[訳]. R. A. Ukoh の論文に対するコメント : *Libri* vol.25, p. 168 に対するコメント. p. 14-17.

原文: Mills, J. "A comment on the article by R. A. Ukoh 'Library classification and change : the example of Bliss,'" *Libri*, vol. 26, no.2. p. 156-157.

坂本博. MARC と LC の冊子目録 p. 17-18. (ニュース)

坂本博. 質疑応答コーナー. p. 18-20.

Technical Services 13 (1979/1)

高鷲忠美. 国際標準書誌記述 (ISBD s) : その背景・発展・問題点. p. 1-28.

Stanley McElderry[著]; 高鷲忠美, 古川肇[訳]. 伝統的なカード目録に代わるもの : 利用者の観点から. p. 29-35.

原文: McElderry, Stanley. "Alternatives to the conventional card catalog from the user point of view," *IFLA Journal*, December 1976 2. p. 232-236.

古川肇. 「英米目録規則」の改訂をめぐって. p. 36-40. (ニュース)

整理技術研究 14 (1979/12)

藤井一雄, [坂本博](#). 『英米目録規則』第2版. p. 1-28.

[椎葉倣子](#). カード目録編成中止 : コーネル大学図書館報告書について. p. 29-41.

[IFLA UBC 国際事務局](#)編纂 ; [高鷲忠美](#), 藤井一雄, [坂本博](#) [共訳]. 目録作業のための世界人名要覧 (連載第1回). p. 42-89.

原文 : International Federation of Library Association and Institutions. International Office for UBC. *Names of persons : national usages for entry in catalogues. 3rd ed.* 1977.

ニュースのページ. p. 90-91.

- Unesco Bulletin for Libraries の誌名変更
 - 古刊本の ISBD 草案
 - AACR2 簡略版作成に着手
 - IFLA の Anonymous Classics 新版刊行
 - Cataloging Service の誌名変更
 - キリル文字の資料は翻字 MARC に

[整理技術研究](#) 15 (1980/9)

藤井一雄. 『英米目録規則』第2版第II部再説. p. 1-10.

[IFLA UBC 国際事務局](#)[編纂]; [高鷲忠美](#), 藤井一雄, [坂本博](#)[共訳]. 目録作業のための世界人名要覧 : 国による目録記入の慣行, 第3版 (連載第2回). p. 11-45.

原文 : International Federation of Library Association and Institutions. International Office for UBC. *Names of persons : national usages for entry in catalogues. 3rd ed.* 1977.

ニュースのページ. p. 46-56.

- Library of Congress Publications in Print [LC 出版物一覧 (年刊)] 活用法
- 「英米地図資料目録委員会」の結成と勧告
- AACR2 に関する著作2点
- AACR2 の簡略版
- "National Union Catalog, Pre-1956 Imprints"刊行予定
- AACR2 適用をめぐる動きとシンシナティ大学図書館 AACR2 検討小委員会報告書について (高鷲忠美)
- イリノイ大学図書館で AACR2 による目録作業開始
- AACR2 関係図書刊行予定
- IFLA UBC 国際事務局 1978 年年次報告
- ALA 資料および整理技術部会 (RTSD) と LC 共催の AACR2 訓練計画
- ALA 図書館用語集新版来年刊行予定
- ALA 目録カード配列規則第3版

整理技術研究 16 (1981/9)

[永田治樹](#), [増井ゆう子](#), [山城玲子](#), [牧村正史](#), [高鷲忠美](#), [坂本博](#)[訳]. ISBD(M) : 国際標準書誌記述 (単行書). p. 1-75.

原文: *ISBD(M) : International standard bibliographic description for monographic publications*. IFLA International Office for UBC, 1978.

整理技術研究 17 (1982/5)

田辺久之. 英米目録規則からみたノン・ブック資料の系譜. p. 1-19.

[IFLA UBC 国際事務局](#)[編纂]; [高鷲忠美](#), 藤井一雄, [坂本博](#)[訳]. 目録作業のための世界人名要覧一国による目録記入の慣行一第3版(連載第3回). p. 20-79.

原文: International Federation of Library Association and Institutions. International Office for UBC. *Names of persons : national usages for entry in catalogues. 3rd ed.* 1977.

[高鷲忠美](#), 藤井一雄[訳]. アメリカ合衆国議会図書館の目録に関する新方針. p. 80-88.

原文: Library of Congress. *Cataloging Service Bulletin*, Issue No. 8 (Spring 1980). p. 8-15.

ニュースのページ. p. 89-91.

- ・新排列規則刊行さる : ALA と LC
- ・Day 1 順調に経過
- ・OCLC 図書館間貸出 100 万件に到達
- ・OCLC の名称変更および頭字語の意味変更

図書館整理技術研究会研究情報 No.4 (1982/8)

[Michael Gorman](#) 著 ; [樋川清司](#) 訳. 目録と最新テクノロジー. p. 1-29.

原文: Gorman, Michael. "Cataloging and the new technology" in *The nature and future of the catalog: proceedings of the ALA's Information Science and Automation Division's 1975 and 1977 Institutes on the Catalog*. Edited by Maurice J. Freedman and S. Michael Malinconico. Oryx Press; 1979. p. 127-152.

整理技術研究 18 (1983/1)

J. A. Shinebourne[著]; [岩下康夫](#), [遠山潤](#)[共訳]. 英米目録規則批判. p. 1-33.

原文: Shinebourne, J. A. "A critique of AACR," *Libri*, vol. 29, no. 3. P. 231-259.

[鳥海恵司](#). ALA 排列規則 (1980) : 新しい排列原則について. p. 34-49.

[坂本博](#). IFLA モントリオール大会 (第48回) 参加報告. p. 50-52.

整理技術研究 19 (1983/12)

- IFLA UBC 国際事務局 (編纂); 高鷲忠美, 藤井一雄, 坂本博(共訳). 目録作業のための世界人名要覧 : 国による目録記入の慣行第3版および補遺 (連載第4回). p. 1-41.
原文 : International Federation of Library Association and Institutions. International Office for UBC. *Names of persons : national usages for entry in catalogues. 3rd ed.* 1977. ; Supplement. 1980.
ニュースのページ. p. 89-91.
- ・マクリーシュと目録法改革の淵源 (藤井)
 - ・AACR2, 初の修正 (藤井)

整理技術研究 20 (1984/12)

- 樋川清司. 記述の精粗と目録効率 : バース大学目録研究センターの報告から. p. 1-17.
藤田健一. 逐次刊行物目録規則論考 : 逐次刊行物目録規則のために. p. 18-25.
松谷美佐子. 朝鮮人名と目録について. p. 26-30.
岩淵泰郎. NCR 新版予備版本版化への提言(1) : 第9回整理技術全国会議における提言を中心として. p. 31-35.

整理技術研究 21 (1985/10)

- 高鷲忠美. NCR 新版予備版本版化への提言(2) : 第10回整理技術全国会議における提言を中心として. p. 1-5.
関野真吉. 和田家所蔵和田万吉先生著作目録 (原稿 12、刊本 3). p. 6-11.
関野真吉. 和田万吉先生著作目録 : 分類順目録 020-099. p. 12-17.
関野真吉. 和田万吉先生著作目録 : 分類順目録 010-019. p. 18-36.

整理技術研究 22 (1986/5)

- 伊藤数美. 「コロン分類法」における"Canons"について—その1—. p. 1-14.
友竹健二. 目録業務におけるパーソナルコンピューターの活用. p. 15-26.
岩淵泰郎. 関野真吉先生の思い出. p. 27-28.
山内四郎. 関野真吉先生と書誌学分科会. p. 29-43.
関野真吉先生年譜. p. 44-54.

整理技術研究 23 (1986/12)

- 伊藤数美. 「コロン分類法」における"Canons"について—その2—. p. 1-17.
中井えり子. 学術情報センター目録システムを利用して : 参加館における一つの実験. p. 18-44.
志保田務. NCR 本版案における書誌階層及び書誌単位規定に対する一考察. p. 45-53.

高鷲忠美, [志保田務](#), 大城善盛. 非基本記入方式の目録規則 : 日本目録規則新版の歴史的背景. p. 54-61.

IFLA 東京大会 1986 書誌調整部会目録分科会における発表

[整理技術研究](#) 24 (1987/10)

[岩下康夫](#). 逐次刊行物改題考. p. 1-14.

[伊藤数美](#). 「コロン分類法」における"Canons"について—その 3—. p. 15-30.

[岩下康夫](#), [遠山潤](#). AACR2 は基本記入を脱け出せるか . p. 31-47.

[志保田務](#). 書誌階層関係概念理解のカテゴリーを求めて. p. 49-57.

[図書館整理技術研究会](#). 単一記入目録のための標目選定表 : 特に著作の集中を重視する目録のための標目選定基準. p. 58-59.

[整理技術研究](#) 25 (1988/7)

[岩淵泰郎](#). 日本目録規則 1987 年板に対する意見. p. 1-7.

[古川肇](#). 日本目録規則 1987 年板に対する意見. p. 9-10.

[伊藤数美](#). 「コロン分類法」における"Canons"について—その 4—. p. 11-25.

[関野真吉](#). NCR1965 年版の成立過程について (講演記録). p. 27-46.

[整理技術研究](#) 26 (1989/4)

[伊藤数美](#). 「コロン分類法」における"Canons"について—その 5—. p. 1-18.

[小幡砂智子](#). 学術情報センター総合目録システムの検索について. p. 19-65.

[Larry Auld](#)[著]; [図書館整理技術研究会名古屋支部](#)[訳]. 典拠コントロール : 80 年間のレビュー. p. 66-79.

原文: Auld, Larry. "Authority control : an eighty-year review." Library resources & technical services, Vol. 26, No. 4. p. 319-330.

[整理技術研究](#) 27 (1990/1)

[古川肇](#). 「ISBD を構成部分の記述に適用するためのガイドライン」の紹介. p. 1-10.

[加藤登](#). J-BISC ダウンロード・データの自館目録カードへの利用 : BASIC プログラムによる活用例. p. 11-19.

[藤田節子](#). オンライン検索ユーザーマニュアルの作成. p. 21-30.

[河村芳行](#). 洋書分類の補助的ツールについての一考察 : 工学分野を対象として. p. 31-38.

[伊藤数美](#). 「コロン分類法」における"Canons"について—その 6—. p. 39-51.

[整理技術研究](#) 28 (1991/2)

北克一. 海を渡った NACISIS-CAT : 英国日本資料の共同目録の実現性調査プロジェクト. p.1-7.

田窪直規. 資料分類の基礎構造 : 座標系モデルとコードを軸とした試論. p. 9-30.

松井純子. アメリカ目録事情. p. 31-37.

志保田務. 書評「分類と索引とデータベース : 山田常雄氏追悼論集」. p. 39-44.

古川肇. 『英米目録規則』第2版 1988年版 : その改訂内容の紹介. p. 45-55.

整理技術研究 29 (1991/12)

大曲俊雄. ルビつき書名等の扱いについて. p. 1-30.

北克一. COMPASS (COMputer Aided Subject System) : 語彙による新しい主題索引の試み. p. 31-40.

パトリック・ウィルソン[著]; 高鷲忠美, 岩下康夫[訳]. 目録の第2番目の目的. p. 41-52.

原文: Wilson, Patrick. "The second objective" in The conceptual foundations of descriptive cataloging. Edited by Elaine Svenonius. Academic Press, 1989. p. 5-16.

整理技術研究 30 (1992/6)

古川肇. 書誌的関連の諸類型 : Tillett による書誌的関連の分類. p. 1-6.

パトリック・ウィルソン[著]; 高鷲忠美, 岩下康夫[訳]. 目録の第2番目の目的を解釈する. p. 7-20.

原文: Wilson, Patrick. "Interpreting the second objective of the catalog," The Library Quarterly, Vol. 59, No. 4, October 1989. p. 339-353.

日野知子. 外国文学の分類番号の与え方について : 事例報告 : 東洋大学 (白山) 図書館の場合. p. 21-27.

朱剛. 「中国図書館図書分類法」の歴史と現状. p. 29-33.

伊藤数美. 「コロン分類法」における'Postulates'について. p. 35-47.

木村隆子[編]. 「Technical Services」「整理技術研究」「図書館技術研究会研究情報」総目次・著者名索引. p. 49-65.

整理技術研究 31 (1992/12)

高鷲忠美, 岩下康夫. 記述の比較研究 : 英米系目録規則, ISBD, NCR s. p.1-33.

志保田務, 山田忠彦, 赤瀬雅子[編著]; 山田伸枝, 三浦整, 深本悦子, 深本健一郎[編]. 若い日の芥川龍之介 : 読書書誌. p. 34-46. <http://ci.nii.ac.jp/nrid/9000008291272>

田窪直規. 整理技術・情報管理等研究集会 TP&D フォーラムについて. p. 47-50.

大城善盛. 書評・『TP&D フォーラムシリーズ』. p. 51-52.

北克一. 基本件名標目表第3版 (BSH3 版) シソーラス構造化の試み : 外形式を中心として. p. 53-75.

整理技術研究 32 (1993/6)

坂本博. 整理技術・情報管理等研究集会 TP&D フォーラムについて. p. 1-4.

図書館整理技術研究会名古屋支部. 大学図書館地域ネットワーク作りのためのインフラストラクチャー整備の予備作業. p. 33-52.

志保田務, 山田忠彦[著]; 三浦整, 深本健一郎 [編]. 芥川龍之介の文壇登場を支えた読書: 鼻・芋粥・羅生門時代の芥川龍之介の読書遍歴・書誌. p. 6-31.

整理技術研究 33 (1994/5)

北克一. 現行目録基準における「書誌単位」および「記述の基盤」に関する一考察. p. 1-20.

北克一. 英米目録規則修正事項 1993 年について. p. 21-27.

志保田務, 野口恒雄, 北克一, 向畑久仁, 前川理女, 西出浩二, 杉本節子. コンメンタール計画: NCR1987? 研究ノート. p. 29-36.

整理技術研究 34 (1994/9)

高鷲忠美, 岩下康夫. 「英米目録規則第 2 版 1988 改訂版 1993 修正事項」の概要について. p. 1-12.

志保田務, 山田忠彦[著]; 三浦整, 深本健一郎 [編]. 芥川龍之介の文壇登場を支えた読書: 鼻・芋粥・羅生門時代の芥川龍之介の読書遍歴・書誌. p.13-68.

整理技術研究 35 (1995/9)

マイケル・ゴーマン著; 高鷲忠美, 岩下康夫訳. AACR2R 以後: 英米目録規則の将来. p. 1-5.

原文: Gorman, Michael. "After AACR2R: the future of the Anglo-American Cataloguing Rules" in *Origins, content, and future of AACR2 revised*. Edited by Richard P. Smiraglia. American Library Association, 1992. p. 89-94.

志保田務, 山田忠彦[著]; 三浦整, 深本健一郎[編]. 我鬼窟から澄江堂へ: 大家への歩み, そして衰弱の兆候. p. 6-61. (大正 10-13 年の芥川龍之介の読書遍歴・書誌)

整理技術研究 36 (1996/1)

古川肇. 日本十進分類法新訂 9 版の新しい諸相. p. 1-15.

マイケル・カーペンター著; 高鷲忠美, 岩下康夫訳. 目録理論は誤りに基づいているか. p. 16-22.

原文: Carpenter, Michael. "Does cataloging theory rest on a mistake?" in *Origins*,

content, and future of AACR2 revised. Edited by Richard P. Smiraglia. American Library Association, 1992. p. 98-100.

[マイケル・ゴーマン](#)述；[志保田務](#), [岩下康夫](#)訳. 目録世界の未来への招待：マイケル・ゴーマンのメッセージ：訪問日本図書館人を歓迎して. p. 23-25.

[志保田務](#), [山田忠彦](#) [著]；[三浦整](#), 深本健一郎[編]. 芥川終末期の読書書誌：大正 14-15 年. p. 26-63.

整理技術研究 37 (1996/9)

[坂本博](#). 日本語資料の目録規則と常識との狭間(1). p. 1-59.

[金子義一](#). WWW におけるサーチエンジンの有効活用. p. 61-78.

整理技術研究 38 (1997/2)

[金子義一](#). イントラネットによる情報管理の実際. p. 1-38.

[鈴木信義](#). 著者記号表カナ版第 2 版. p. 39-56.

整理技術研究 39 (1998/1)

[Yee, Martha M.](#)[著]. [岩下康夫](#)[訳]. 著作とは何か第 4 編:目録理論家と 1 つの定義. p. 1-16.

原文: Yee, Martha M. "What is a work? Part 4, Cataloging theorists and a definition," *Cataloging & Classification Quarterly*, Vol. 20, No. 2, 1995. p. 3-23.

[北克一](#), [志保田務](#), [高鷲忠美](#). 省令科目「資料組織演習」におけるコンピュータ目録演習環境の構築：司書課程レベルをもとに. p. 17-29.

[古川肇](#). ある「資料組織概説」の執筆まで：構成と用語を中心として. p. 31-37.

整理技術研究 40 (1998/7)

[古川肇](#), [志保田務](#). 「日本目録規則 1987 年版改訂版」への意見と提案：書誌階層構造をはじめとして. p. 1-9.

[北克一](#), [志保田務](#), [高鷲忠美](#). 「資料組織演習」：コンピュータ目録演習課題の自動提示機能の展開. p. 11-22.

[北克一](#), [村上泰子](#). 電子図書館における著作権典拠管理ファイルの機能に関する一考察. p. 23-35.

整理技術研究 41 (1999/7)

[志保田務](#), 谷本達哉. 資料組織法から学校図書館のメディアの構成へ. p. 1-12.

[古川肇](#), [志保田務](#). 続『日本目録規則 1987 年版改訂版』への意見と提案(上). p. 13-27.

[北克一](#), [志保田務](#). 『日本目録規則 1987 年版改訂版』における「版に関する事項」の規

則構造. p. 29-38.

[志保田務](#), [北克一](#). 『日本目録規則 1987 年版改訂版』の逐次刊行物関係規定間のバランスに関する一研究. p. 39-43.

[古川肇](#). ISBD(ER)への案内. p. 45-49.

整理技術研究 42 (2000/2)

[北克一](#). 『日本目録規則 1987 年版改訂版』第 9 章改定案「電子資料」の検討. p. 1-12.

[志保田務](#), [北克一](#). 『日本目録規則 1987 年版改訂版』における区切り記号法に関する一検討：書誌レベルを軸に. p. 13-18.

[古川肇](#), [志保田務](#). 続『日本目録規則 1987 年版改訂版』への意見と提案(下). p. 19-26.

資料組織化研究 43 (2000/7)

[平井尊士](#), [北克一](#), [志保田務](#). 司書科目における書誌データベース構築演習の一手法の提案. p. 31-39.

[後藤圭太](#). NDC による作家の自伝の分類について：作家の日記との比較から. p. 41-49.

資料組織化研究 44 (2001/7)

[古川肇](#). 目録の構造に関する試論. p. 1-9.

[志保田務](#), [北克一](#). 目録における「相対性」の考察稿. p. 11-22.

[志保田務](#). 「真理がわれらを自由にする」における"原典"と引用法小論. p. 23-29.(コラム
カタログガーのメモ)

[古川肇](#). 森銑三「近代名家著述目録と同後篇」について：江戸時代における著者別書目の系譜. p. 31-33. (コラム カタログガーのメモ)

資料組織化研究 45 (2002/1)

[瀬田祐輔](#). 小学校向き件名目録における細目に関する考察. p. 1-17.

[村上泰子](#), [村木美紀](#), [北克一](#). 司書科目「資料組織演習(目録)」における課題類型別習熟度調査の分析：司書講習編. p. 19-32.

[古川肇](#). 『日本十進分類法』新訂 9 版における 9 類の改訂. p. 33-41.

[古川肇](#). ルベツキイをめぐる断想：生誕百年を記念して. p. 43-47. (コラム カタログガーのメモ)

資料組織化研究 46 (岩淵泰郎先生古稀記念号) (2002/1)

[志保田務](#), [北克一](#). "実例"を軸とした目録研究法の検討：山田常雄著「著者書名目録の機能と標目」を軸に. p. 1-16.

[古川肇](#). 『日本十進分類法』新訂 9 版における 2 類の改訂. p. 17-25.

[村上泰子](#), [村木美紀](#), [北克一](#). 司書科目「資料組織演習(目録)」における課題類型別習熟度調査の分析：司書課程編. p. 27-36.

[高鷲忠美](#). コピー・カタログギング雑感. p. 37-38. (コラム カタログガーのメモ)

[田澤恭二](#). 岩淵さんとの出会い. p. 39-40. (岩淵先生に関する思い出)

[小関昌男](#). 目録と教育と岩淵先生. p. 41-43. (岩淵先生に関する思い出)

[高鷲忠美](#). 岩淵さんとのおつきあいを振り返って. p. 45-46. (岩淵先生に関する思い出)

岩淵泰郎先生年譜. p. 47-49.

岩淵泰郎先生著作目録. p. 51-54.

資料組織化研究 47 (2003/2)

[瀬田祐輔](#). 小学生向き図書が目次情報の計量的特徴. p. 1-13.

[古川肇](#). 『英米目録規則第2版 2002年版』の二つの章. p. 15-24.

[志保田務](#), [北克一](#), [杉本節子](#). ダウンズ勧告における「目録法」関係事項と、その受容・展開に関する一考察. p. 25-28.

[志保田務](#). 目録規則標準化年表：日本図書館界を主対象に. p. 29-36. (コラム：カタログガーのメモ)

資料組織化研究 48 (2003/11)

[後藤圭太](#). 公共図書館のWebサイトにおけるリンク集作成の意義と課題. p. 1-13.

[古川肇](#). ルベツキイにおける「記述」：訃報に接して. p. 15-21.

[志保田務](#), [北克一](#). 戦前期における大学等の総合目録・目録規則策定に関する史的考察. p. 23-29.

[古川肇](#). 『英米目録規則第2版』の改訂の現状と将来：国際目録規則への動向. p. 31-36.

資料組織化研究 49 (2004/6)

[北克一](#), [村上泰子](#), [櫻木貴子](#). メタデータを中心とした新たな情報メディア組織化研修試案：「DCS」、「DCQ」および「LAP」を対象として. p. 1-14.

[古川肇](#). 目録理論の潮流に抗する論理：Michael Gorman の場合. p. 15-23.

[岩淵泰郎](#). 「図書館資料組織化研究会」発足の頃. p. 25-26. (コラム カタログガーのメモ)

[志保田務](#). 「配架」に関する解説の不足と、誤解の危険性. p. 27-31. (コラム カタログガーのメモ)

資料組織化研究 50 (2005/3)

[古川肇](#). 統一タイトル論への序章. p. 1-9.

[志保田務](#), [北克一](#). 図書館記号の再検討：NDC、NCR との関係を中心に. p. 11-18.

[古川肇](#). 書誌記述におけるタイトルに関する一考察. p. 19-27.

[志保田務](#), 西岡清統, 北西英里. 整理技術関係の手本、解説を提示することの必要.p.29-34. (コラム カタログガーのメモ)

[瀬田祐輔](#). コピー・カタログと「学習件名」. p. 35-37. (コラム カタログガーのメモ)

[高鷲忠美](#). 岩淵泰郎本研究会代表の逝去を悼む. p. 39-41.

[資料組織化研究](#) 51 (2005/12)

[古川肇](#). 構成部分の明示に関する実践. p. 1-7.

[杉本節子](#), [北克一](#), [志保田務](#). 図書館用語の“ゆれ”に関する一考察：「リボン式排架」を素材に. p. 9-19.

[古川肇](#). 統一タイトルおよび本タイトルに関する再考察. p. 21-28.

[志保田務](#). 二つの基本記入論争：研究ノート. p. 29-30. (コラム カタログガーのメモ)

[資料組織化研究](#) 52 (2006/6)

[古川肇](#). 未来の記述規則：AACR3 第I部案から RDA 第I部案へ. p. 1-16.

[北克一](#). 国立情報学研究所のメタデータ・データベース共同構築事業にかかる「国立情報学研究所メタデータ語彙集」の「NII 主題語彙集」の考察. p. 17-37.

[後藤圭太](#). レファレンスサービスにおける資料組織の重要性について. p. 39-46.

[北克一](#), 米谷優子. 『小学校件名標目表第2版』と『基本件名標目表第4版』の比較考察と変換・包摂の研究. p. 47-61.

[志保田務](#), [村田修身](#), 本山晶子. Cataloger とレファレンサー (referencer)：和製英語—安易な「-er」使用批判. p. 63-67. (コラム カタログガーのメモ)

[資料組織化研究](#) 53 (2007/3)

[湯浅俊彦](#). 1980年代における日本図書コード及び ISBN 導入をめぐる図書館界の動向. p. 1-23.

[古川肇](#). 未来の書誌レコードに関する規則：RDA 第1部案から RDA パートA案へ. p. 25-34.

[後藤圭太](#). レファレンスサービスに活かされる資料組織の知識：国立国会図書館「レファレンス協同データベース」の事例を読む. p. 35-43. (カタログガーのメモ)

[古川肇](#). 基本記入標目の機能. p. 45-50. (カタログガーのメモ)

[志保田務](#). 目録教育の危機？. p. 51-52. (カタログガーのメモ)

[資料組織化研究](#) 54 (2008/1)

[吉井潤](#). 多様化する図書館経営時代におけるライブラリアンの情報組織化能力とは. p. 1-13.

[古川肇](#). 未来の書誌レコードに関する規則(続)：メタデータ・スキーマとの調整へ. p.

15-26.

[村上泰子](#), [北克一](#). 司書科目「資料組織演習」環境の現代化とメタデータ入力環境構築の試作. p. 27-36.

[志保田務](#), [北克一](#). NDC の汎用分類表への移行軌跡：もり・きよしの活動を中心に. p. 37-42.

[資料組織化研究-e](#) 55 (創刊準備号) (2008/11)

[高鷲忠美](#), [北克一](#), [志保田務](#), [古川肇](#). 『資料組織化研究-e』準備号. p. 1-4. [本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 56 (2008/12)

[木越みち](#). 貴重資料の機関リポジトリ公開時におけるメタデータ基準についての一研究. p.1-11. [本文 PDF](#)

[古川肇](#). 未来のアクセスポイントに関する規則：構造の再構築へ. p. 12-22. [本文 PDF](#)

[古川肇](#). RDA 最終草案の付録における関連表示. p. 23-25. (カタログのメモ). [本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 57 (2009/9)

[和中幹雄](#). 図書館用語 bibliographic をめぐって. p. 1-19. [本文 PDF](#)

[古川肇](#). 未来の書誌レコードおよび典拠レコードに関する規則：RDA 全体草案の完成. p. 20-35. [本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 58 (2010/3)

[和中幹雄](#). 「国際目録原則」における「一般原則」について. p. 1-15. [本文 PDF](#)

[呑海沙織](#). 昭和初期の私立大学図書館における図書分類法. p.1-15. [本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 59 (2010/12)

[渡邊隆弘](#). 「国際目録原則覚書」策定過程の諸論点：草案の変遷から. p. 1-12. [本文 PDF](#)

[古川肇](#). 書誌レコードおよび典拠レコードに関する規則の成立：RDA の完成. p. 13-32.

[本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). FRBR における「著作」概念の特徴と NCR 改訂の方向性. p. 33-42. [本文 PDF](#)

[松林正己](#). LC で閲覧した ICCP 関係アーカイヴズ史料. p. 43-49. (コラム：カタログのメモ). [本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 60 (2011/3)

[古川肇](#). RDA の評価. p. 1-9. [本文 PDF](#)

[志保田務](#). 挿啓出版者様タイトルページ等における書誌情報は、分かりよく表現していた

だけないでしょうか：記述精密化の流れのほとりに. p. 10-18. (コラム：カタログガーのメモ) [.本文 PDF](#)

資料組織化研究-e 61 (2011/10)

[古川肇](#). ISBD 統合版における電子資料に関する規定. p. 1-9. [.本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). 「決定を RDA 刊行後に持ち越した課題」から見る RDA の方向性 (1) 「転記の原則」をめぐって. p. 10-30. [.本文 PDF](#)

[古川肇](#). 体現形・個別資料に対する典拠形アクセスポイントはなぜ必要か. p. 31-34. (コラム：カタログガーのメモ) [.本文 PDF](#)

資料組織化研究-e 62 (2012/4)

[古川肇](#). 刊行前後の RDA：RDA の適用への道程. p. 1-10. [.本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). 書誌コントロールの戦後体制に関する覚書. p. 11-23 . [.本文 PDF](#)

[古川肇](#). FRBR および RDA に対する疑問再考：責任表示と版表示の帰属について. p. 24-27. (コラム：カタログガーのメモ) . [.本文 PDF](#)

[志保田務](#). 続・挿啓出版者様タイトルページ等における書誌情報は、分かりよく表現していただけないでしょうか：記述精密化の流れのほとりに. p. 28-34. (コラム：カタログガーのメモ) [.本文 PDF](#)

資料組織化研究-e 63 (2013/2)

[古川肇](#). RDA における電子資料に関する規定. p. 1-10. [.本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). 「決定を RDA 刊行後に持ち越した課題」から見る RDA の方向性 (2) RDA 本格導入直前の改訂作業について (その 1) . p. 11-31. [.本文 PDF](#)

資料組織化研究-e 64 (2013/4)

[古川肇](#). 著作に対する典拠形アクセス・ポイントの諸問題. p. 1-13.[.本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). 「決定を RDA 刊行後に持ち越した課題」から見る RDA の方向性 (3) RDA 本格導入直前の改訂作業について (その 2). p. 14-27. [.本文 PDF](#)

資料組織化研究-e 65 (2014/3)

[和中幹雄](#). もう一つの『日本目録規則 1965 年版』批判：石田公道の著作論. p. 1-20. [.本文 PDF](#)

[古川肇](#).RDA における音楽作品に関する規定. p. 21-31. [.本文 PDF](#)

[古川肇](#). RDA における “jurisdiction” という語をめぐって：法律著作の関連指示子. p. 32-36. (コラム カタログガーのメモ) [.本文 PDF](#)

[資料組織化研究-e](#) 66 (2015/3)

[古川肇](#). RDA 改訂項目総覧：改訂の開始から 2014 年まで. p. 1-25. [本文 PDF](#)

[和中幹雄](#). RDA と国際化：個人名の典拠形アクセスポイントの形式をめぐって.

p. 26-48. [本文 PDF](#)

(わなか みきお 大阪学院大学)

(2015年10月28日受付)

(2015年11月23日受理)